

各位

全国引きこもり KHJ 親の会（家族会連合会）山梨支部  
山梨県桃の会

### アンケート結果のご報告

日頃より、当会の活動にご理解とご協力を賜り、感謝申し上げます。

当会では、ひきこもりの方達の現状が広く社会に理解され、一日でも早く必要な支援が受けられますように、との切なる願いから、ひきこもりの方のご家族を対象にアンケート調査を行いました。ここに集計結果をご報告させていただきます。回答を寄せて下さった皆様には、心より御礼申し上げます。

#### 1 アンケートの対象と実施方法

対象：当会の会員及び、過去に当会の月例会に参加された、ひきこもりの方のご家族。

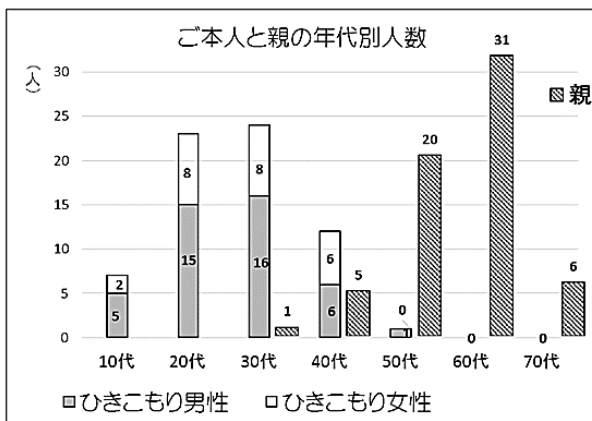
方法：2015年8月9日の月例会会場で記入を依頼し、他の方には郵送(返送期限8月25日)。

回答数：会場で42名、郵送で29名、合計71名の方から回答を頂きました。

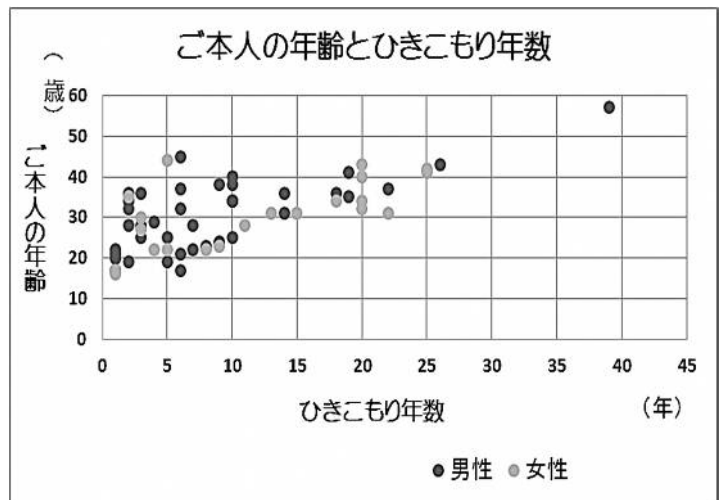
(ご本人の年齢やひきこもり年数など、いくつかの項目で無記入の回答が10名分ありましたので、集計の仕方によって合計数に若干の違いがあります。)

#### 2 アンケート結果

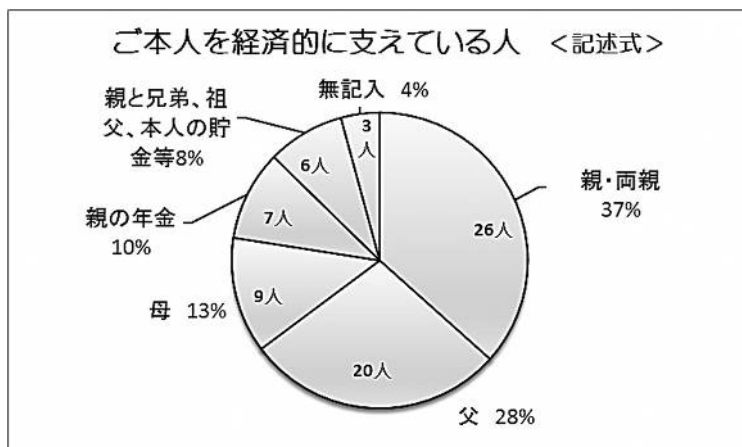
(1)



(2)



(3)



(4) 家族以外の専門機関への相談について

①

どこに相談したか <複数選択式>		
	(人)	
医療機関	39	54.9%
(医療機関のうち精神科・心療内科を受診)	(32)	(45.1%)
民間団体(桃の会など)	22	31.0%
精神保健福祉センター	16	22.5%
若者サポートステーション	13	18.3%
こころの発達総合支援センター	12	16.9%
市町村の窓口	11	15.5%
保健所	7	9.9%
親戚	7	9.9%
教育機関	7	9.9%
知人	6	8.5%
児童相談所	2	2.8%
その他(民間のカウンセラー等)	6	8.5%
どこにも相談しない	5	7.0%

②

何種類の相談機関に相談したか		
	(人)	
1種類	21	29.6%
2種類	19	26.8%
3種類	17	23.9%
4種類	5	7.0%
5種類	1	1.4%
6種類	1	1.4%
7種類	0	0%
8種類	1	1.4%
どこにも相談しない	5	7.0%
相談したが対象外だった	1	1.4%

\* 「どこにも相談しない」の理由 <複数選択式>

- ・相談しても解決しないと思った。(ひきこもり22年、20年)
- ・相談窓口がわからなかった。(ひきこもり14年、10年)
- ・家族で解決すべき問題だと思った。周囲に知られなくなかった。(ひきこもり5年)、など

③家族以外の専門機関等に相談して良かった点、役に立たなかった点 <自由記述式>

( )内は人数

●良かった点

- ・(家族会で)悩みを共有できて気持ちが楽になった。(10)
- ・話を聴いてもらえて気持ちが落ち着いた。(5)
- ・本人が家族以外の人と話せるようになった。家から出られるようになった。(4)
- ・医療機関で薬を処方してもらい、症状が改善した。(2) など

●役に立たなかった点

- ・相談しても、話を聴くだけだった。(8)
- ・相談しても状況が変わらない。(8)
- ・本人を連れてくるように言われたが、本人が行かないので話が進まない。(7)
- ・対応が親身でなく事務的だった。(3)
- ・言いたいことが伝わらず、気持ちを理解してもらえなかった。(3)
- ・子どもの状況はそれぞれなので、家族会では却って迷うことがある。(2)
- ・言われたことで本人が傷ついた。(1)
- ・就職支援で無理だと言われた。(1)
- ・最後まで面倒を見てくれるところがない。(1) など

(5)

山梨県の行政に望むこと <複数選択式>		(人)	
ご本人の自立に向けての経済的支援	40	56.3%	
各市町村に、気軽に現状を相談できる窓口の設置	36	50.7%	
ひきこもりに特化した就労相談窓口の設置	36	50.7%	
個々の特性に合った就労機会の提供	36	50.7%	
引きこもり地域支援センターを設置	35	49.3%	
ご本人や親の高齢化への支え	33	46.5%	
地域支援センターに「ピアサポーター」などの専門相談員を配置	32	45.1%	
就労準備のための受け皿的な場所づくり	32	45.1%	
自宅に訪問して当事者へのサポートをするシステムづくり	29	40.8%	
ひきこもりの家族教室・勉強会・講演会を開く	27	38.0%	
市町村ごとに、ひきこもりの方の支援担当者を置き、個別の支援計画を作成・実施	27	38.0%	
自宅に訪問して家族へのサポートをするシステムづくり	22	31.0%	
近場に居場所(当事者・家族)の設置	21	29.6%	
ひきこもり状態の方へのイメージ払拭や理解のための啓蒙活動	21	29.6%	
行政と支援者(医療者・支援機関など)の一体化(連携)	19	26.8%	

(6) ご本人に関することで、今困っている事や不安に思っていること <自由記述式>

( ) 内は人数

- ・将来への不安(親の高齢化、将来一人になったら・・・等)(14)
- ・経済的な不安(10)
- ・自立できるのか(10)
- ・他人と関われるようになるのか(8)
- ・就労について(6)
- ・長期ひきこもりから外に出られるのか(6)
- ・いつまで今の状態が続くのか(6)
- ・健康への不安(4)
- ・音に過敏(2)
- ・本人の気持ちがわからない、家族との会話が無い(2)
- ・同世代の人と関わりを持って欲しい(2) など

(7) ひきこもり支援についてのご意見・ご要望 <自由記述式> ( ) 内は人数

●支援機関、支援者には親身な対応を望む (3 4)

- ・地域支援センターの設置を強く望む。
- ・しっかりと機能する実行力を伴った支援を。
- ・支援機関の堂々巡りは避けたい。
- ・門前払いはやめてほしい。
- ・家族と同じ視点に立ったサポートを。
- ・アウトリーチ（訪問）を希望。
- ・支援機関のマップが欲しい。
- ・同じ担当者に長く関わって欲しい。 など

●親が高齢化している (6)

- ・親も子も高齢化しているので、早急な対応を。
- ・子が自立するまで死にきれない。 など

●民間団体の影響力は大きい (6)

- ・桃の会は力になった。
- ・親が桃の会に参加することで子どもに変化が見られた。 など

●行政機関へ、対応や連携を希望 (5)

- ・山梨県で、ひきこもり支援対策を具体的にしっかりと行って欲しい。
- ・各市町村が同じサービスを提供して欲しい。
- ・相談窓口で、親や本人にカウンセリングを希望。 など

●発達障害へも対応して欲しい (4)

- ・学齢時にきちんと対応することで、不登校やひきこもりはかなり防げるはず。
- ・大人の発達障害へも対応して欲しい。 など

●家族との関係、親が反省 (4)

- ・子育てに失敗、手遅れかも。
- ・夫の協力が得られない。
- ・家族が全滅寸前。
- ・当事者支援と家族のサポートを。

●その他 (4)

- ・民生委員による調査だけでなく、窓口で直接伝える調査を実施して欲しい。
- ・民生委員への不安。
- ・支援者への助成金を考えてほしい。 など

### 3 アンケートのまとめ

- (1) 親もご本人も高齢化しており、ご本人の将来や経済的なことに関して不安を抱いている家族が多かったです。家庭だけではどうにもならない切実な問題があると感じます。
- (2) 回答 71 名中、ひきこもり年数が 10 年以上 20 年未満の方が 14 人、20 年以上 30 年未満の方が 9 人、40 年近くに渡る方が 1 人いました。実に 33.8%の方が 10 年以上の期間ひきこもっていることとなります。一度ひきこもると長期化してしまいやすいことが伺われます。
- (3) 相談する場所がわからず相談すらできていない、あるいは相談に行ってもたらい回しにされる、また、話を聴いてもらうだけで何も解決しない状態に余儀なく置かれている、というひきこもりの方達の現実が明らかとなりました。  
支援機関や支援者の方達には、ご本人や家族の苦しさを理解していただいた上で、親身に対応していただきますようお願いいたします。
- (4) ご本人の年齢やひきこもり年数など、いくつかの項目で空欄の方が 10 名ありました。このアンケートにより個人が特定される可能性は考えられませんが、それでも書くことを躊躇したのかもしれない。また、「どこにも相談しない」と回答した方が 5 名あり、県内には、家族がひきこもっていることを誰にも言えずに苦しんでいる家庭が水面下に多数存在するのではないかと、非常に懸念されます。
- (5) 行政に望むこととしては、経済的支援、ご本人や家族の相談窓口の設置、サポート体制作りなど、多岐にわたる項目で期待の高さが伺えます。行政の方達には、ご本人や家族の声に耳を傾けて頂いて、実態に即した施策を早急に展開して頂けるように希望いたします。
- (6) ひきこもりの方の中には、発達障害やその傾向のある方が少なからずおられますし、学齢期に集団不適應となるケースも多く見受けられます。学校の中で不登校を防ぐ対応や発達障害への対応をして頂くことで、かなりの割合でひきこもりを未然に防ぐことが可能ではないかと考えます。

### 4 最後に

ご本人や家族が孤立せず、精神的に追い詰められることがないようにとの思いを持ちながら、山梨県桃の会は、これからも同じ悩みを持つ者同士として、ひきこもりのご本人や家族が安心して集える場を皆で作っていかうと考えております。

民間団体と行政・医療・その他支援機関のなめらかな連携があってこそ、手厚い支援、信頼の支援へと繋がると思いますので、行政及び関係機関の皆様には、今後ともよろしくお願い申し上げます。